

令和元年度第1回南部町教育協働みらい会議 議事録

開催日時 令和元年7月18日(木)
午後4時00分～午後5時20分

開催場所 天萬庁舎3階 富有まんてんホール

出席者 陶山町長、井上教育委員、板教育委員、瀬田教育委員、
畠教育委員、福田教育長

事務局 松田副町長、大塚総務課長、安達教育次長
角田人権・社会教育課長、水嶋総務・学校教育課長

書記 総務・学校教育課 畑岡

欠席者 なし

傍聴人 なし

	【開会 午後4時00分】
	【1. 互礼・開会】
	【2. あいさつ】
陶山町長	南部町の10年間後をどう考えるかが課題である。長寿社会となり、大きな転換が必要とされるなか、教育を考えていかなければならない。現実的課題として、地方の人材が東京に吸い取られている。都会に行った子ども達どう向き合うかも考えていく必要がある。
	【3. 意見交換】
松田副町長	まず、こども園・保育園の保育、幼児教育について話し合いたい。 近況としては、保育士の不足を南部町ベアーズ、さくらキッズで対応し、4月の待機児童はなしとなった。今後は、すみれこども園以外の3園の老朽化、建替えや統合も含めて考えていく必要があり、子育て支援課が座談会の開催を予定している。
板委員	数年前に、すみれこども園とひまわり保育園が直営、さくら保育園とつくし保育園が民営での運営に切り替わった。その後の状況について聞きたい。
松田副町長	それまで町の非正規であった職員を、職の安定を考えて、民営の指定管理者「伯耆の国」の正規職員として待遇改善を行った。このことにより民間ならではの柔軟な対応ができたと考える。
板委員	現在、働いている方の意見を教えてほしい。
松田副町長	米子市などの民営保育園と比べても待遇面等において遜色はないと聞いている。今後の方向性は現時点では決めていないが、直営と民営をどうやっていくのかがポイントだと思う。
陶山町長	10月に待機児童が出ることも予想される。これは、女性の社会進出によることも起因している。地方では、パート程度の給与しかなかったことが問題である。保育業務は、都市部では民間の業務となっており、人口が減っていく地方で、どうやって進めていくかが行政課題である。直近の問題は、待機児童があること。0歳児を保育すること、国家としてこのことがよいのか考える必要がある。

島委員	待機児童の問題については、仕事を復帰したいのにできない現状があると思われる。
	施設に関しては、すみれこども園以外の施設の老朽化が心配である。
	保育士の処遇については、改善の話を聞かすが、基本的に給与が上がっていないのではないかと思う。それを上げないと年金にも影響する。保育士はハードな仕事である。
井上委員	つくし保育園は老朽化し、ひまわり保育園は環境がよく、高台にあり、災害対応にも適している。立地場所は、通勤の際に子どもを預けるには道沿いが都合がよいと思う。
陶山町長	南部町ベアーズのような小規模保育は必要であったが、多くは必要ない。企業型の保育園により、地方と都市部で保育士の奪い合いも起こったと思う。ひまわり保育園のような小規模園は評判がよいが、職員のローテーションがまわらないこともある。
	保護者は、保育園の選定を家の付近よりも、通勤経路の近くに望まれる傾向にある。
島委員	子どもの受け入れ体制が整わないと、出生に影響する。
陶山町長	仕事をやりたいと思う女性が多いと思う。
島委員	育児休暇を取得したとしても、育児休暇はすぐになくなるので、核家族は大変だと思う。
	子どもの看護休暇があっても足りないと思う。
松田副町長	公務員は福利厚生がよい方かもしれない、地域で考える必要がある。
福田教育長	公務員や三世代家族は、まだよいかもしれないが、民間で働く方は対応しきれないことも多い。どうすればよいか正解が難しい。
島委員	保育士は母のように接しろと言われていたが、親が一番であると思う。
	現状では、社会の縮図のような子どもを見ている。朝の7時から夜の19時までの子どもを心配する。
福田教育長	自分の感情をコントロールできない子どもがいる。安心して親が子育てできる環境があるのか。しつけは学校や園まかせの親もいる。
井上委員	保育環境については、構造改革が必要なのではないかと考える。
	子どもの出生数より、小学校入学者の数が多いのはなぜか。
松田副町長	少子化対策の効果と考えている。
陶山町長	日南町は過去40年間で人口が半減している。
	町外に出た子どもが、いつかは帰ってくると思っていたが、帰ってこない現実がある。
松田副町長	次に「まち未来科」について話し合いたい。
	先日の法勝寺中学校の「まち未来会議」に参加し、発表内容の質が上がっていると感じた。
井上委員	現状把握をしっかりすると、対策がさらによく出せる。
	自分たちができることと役場や地域と協働しないとできないことを分けて考えていた。
福田教育長	やり方は色々あるが、これは、数年経過して形ができたものである。
松田副町長	よい例を役場の職員などが明示するとよいかもしれない。
井上委員	役場職員も「まち未来科」を研究してみてもどうだろうか。
大塚総務課長	役場職員は、一人一研究をしている。
陶山町長	子ども達の発表は、洗練されてきた。
福田教育長	教員の方向性を子どもが感じて作ってしまうので、例えば民間のデザイナーなどの感性を取り入れるとよいと思う。
島委員	自分の言ったことが実現するとうれしいと思う。
井上委員	「ネットで調べた」が多かった。現場に行くなど自分で直接調べて欲しかった。
福田教育長	体験することはとても大切であると感じる。

